

子どもかけっこ教室

事業代表者 教育学部・教授・加藤謙一

1. 事業の目的・意義

走、跳、投運動は多くのスポーツの基礎となるが、小学校には陸上競技の専門の指導者がいないことが多い。そのため、子どもたちは適切な指導を受ける機会極めて少ない。そうした子どもたちに陸上競技の基礎的な技能を楽しく練習して、かけっこなどが好きになってもらえることを目的とする。どうしたら速く走れるのか、たくさん跳べるのか、など上手に陸上（運動）競技ができるように大学生とともに指導した。

2. 研究方法（又は事業内容）

(1) 参加者

参加した子どもは県内の小学4年生から6年生の36名であった。教室は3回（7月22日、29日、8月5日）実施した。教室は、宇都宮大学峰キャンパス陸上競技場で行われた。

(2) 実施内容

毎回、3つのグループに分かれて走運動、ハードル走、ボーテックス投げの練習を実施した。



図1 短距離走の練習風景



図2 ボーテックス投げの練習風景

3. 事業の進捗状況および成果

子どもたちは、大学教員と大学生の指導のもと、短距離走、ハードル走、ボーテックス投げを、3日間にわたって学んだ。

暑さに負けずどの子も全力で楽しく、走ったり、跳んだり、投げたりした。短期間ではあったが、みんな運動のコツをつかんで上手になって行く様子が見られた。3回目に参加者全員の50m走のタイムを測定し、その中間地点のフォームの連続写真を作成した（添付資料）。そして、ストライドやピッチなどの基礎データを求め、今後、練習する際に気をつけてほしい内容のコメントを添えて後日、郵送した。

4. 今後の展望

こうした取り組みを行うことは、子どもたちの運動やスポーツへの興味関心を高めるとともに、運動能力の向上に役立つと考えられる。また、将来教員を志望している学生にとっても子どもを理解する重要な機会となると感じた。